

とんからし通信

人力車の旅 in 松島

幻想的な景色にうっせい♡



No. 273

～主な内容～

- 施設長コラム
- 活動紹介
(すてーじ、松島探検ツアーほか)
- 研修報告
- 新利用者紹介 ・職員コラム ほか

仙台つどいの家編集室
発行責任者 山口 収
発行日 2025年 1月25日
〒983-0836 仙台市宮城野区幸町3丁目12-16
Tel 022(293)3751 Fax 022(293)3752
E-mail sendai@tsudoinoie.or.jp
ホームページ <http://www.tsudoinoie.or.jp>



日本の精神医療はどこに向かうべきか の巻

新しい年を迎えました。世間の流れに乗って…というわけでもありませんが、年賀状による新年のご挨拶を今年から廃止させていただきました。というわけでこの場をお借りして、本年もどうぞよろしくお願いいたします！

さて、この年末年始のお休みは長くて長くて。。持て余しましたが、録画して見られていなかった番組などを見ることもできました。その中で、昨年12月に放送されたNHKスペシャル『死亡退院～精神医療・闇の記録』を見て、いろいろと考えさせられました。一昨年2月と昨年6月に見ていた内容に、さらに追加取材を重ねて肉付けされたものでとても見ごたえがありました。

2023年2月、NHKは『ETV特集 ルポ死亡退院～精神医療・闇の実態～』を放送しました。東京都八王子市にある民間の精神科病院『滝山病院』における、看護職員による入院患者への虐待などを報じたスクープでした。この報道をきっかけに警察が捜査を開始し、看護師5名が逮捕・略式起訴されました。

精神科病院における事件はこれまでもくり返し起こっています。1984年宇都宮病院事件では看護職員による暴行で患者2名が死亡。2001年には朝倉病院事件が起こり、拘束や過剰医療により40名以上の患者が亡くなっています。2020年に起こった神出病院事件では、入院患者への暴行や虐待容疑で看護職員6名が逮捕・起訴されました。そして今回の滝山病院事件。。繰り返される精神科病院での事件。滝山病院事件はなぜ起こってしまったのでしょうか。

ひとつは人員配置基準に『精神科特例』が認められていることが関係していると思います。精神科病院では医師の数は一般病院の3分の1の配置でよいとされています。また、看護職員も一般病院が入院患者3人につき1名のところ、精神科は入院患者4人につき1名の配置と特例措置が設けられています。さらに滝山病院では看護職員の9割が非常勤職員で、本来医師・正看護師からの指示により業務を行うべき准看護師が看護師長を務めていたケースもあったということです。指示系統が不明瞭になり、閉鎖的な人間関係になったことが想像できます。

また、診療報酬において精神科は内科に比較して低く抑えられていることも一因かもしれません。2023年度の診療科別の診療点数の全国平均を見ると、精神科は一般内科の半以下になっています。診療報酬を稼ぐ目的で入院患者の治療に不必要な高額な薬剤等を大量に使用し、結果的に8割近くの患者が『死亡退院』するという状況に陥ったのではないのでしょうか。ちなみに滝山病院の朝倉重延院長は、前出の『朝倉病院事件』当時の院長で、廃院・保険医取り消しを経て父の死去をきっかけに滝山病院の院長に就任したのです。二つの事件は手口がとても類似しています。

もうひとつ。東京都の指導・監督責任も大きいと思います。都は定例監査を行っていましたが、事前通告の上での監査であったため、看護師らは拘束帯を隠したり痣のある患者を別の部屋に連れて行ったりしたようです。都が事件を把握した時期の監査結果も、暴行等の不適切な対応の項目は4段階でB、身体拘束などの項目ではAと評価されているのです。

そして最も大きな要因は精神科病院の持つ根本的な課題です。都内で民間の精神科病院は、精神科単科の病院がほとんどのため、精神科領域と内科領域の病気を併発している患者の受け入れ先が極めて狭められているという現状があります。複数科を持つ都立の精神科病院がいくつかありますが、急性期の患者の受け入れを優先にしているため、人工透析などの必要な患者の受け入れ枠は少ないようです。そんな中、『あそこに行ったら最後』『虐待されて薬剤を過剰投与されて死亡退院』と言われる滝山病院に行かざるを得なかった患者たちが沢山いたのです。番組の中で繰り返し『必要悪』という言葉が出て来ますが、医療・家族・行政など様々な人たちが『とんでもない病院だ』と思いながら受け入れ先を確保できない状況の中で、やむを得ず滝山病院を温存させてきたことが、この事件の大きな原因であると感じるのです。

心ある職員の内部告発によって明らかにされたこの事件は、心ある弁護士などの支援者によって掘り起こされ、NHKのディレクターの丁寧かつ大胆な追加取材で社会全体の問題になったことに感謝したいと思います。

この事件が明るみになる前年の2022年8月に、スイスのジュネーブで障害者権利条約の日本の建設的対話が開かれました。そして翌9月には、権利委員会から日本政府へ勧告（総括所見）が出されました。その中の第14条（身体の自由および安全）には『障害者の強制入院を、障害を理由とする差別であり、自由の剥奪に相当するものと認識し、実際の障害または危険であると認識されることに基づく障害者の強制入院による自由の剥奪を認めるすべての法的規定を廃止すること』、第19条（自立した生活及び地域生活への包容）には『精神科病院に入院している障害者のすべてのケースを見直し、無期限の入院をやめ、インフォームド・コンセントを確保し、地域社会で必要な精神保健支援とともに自立した生活を育むこと』と記してあります。認知症も含めた我が国の精神医療に対する姿勢が問われています。（管理者 山口 収）

※ぶどう社より8月に出版された『精神科病院・認知症の闇に九人のジャーナリストが迫る』（大熊由紀子編著）はこれらの問題をさらに掘り下げていて読みごたえがあります。ぜひお手に取ってみてください！

サンドウィッチマンさんに会いたい！！

～サンド軍団 VS 楽天イーグルス OB スペシャルマッチ～

サンドウィッチマンが大好きな阿部明日さん。いつも「サンドウィッチマン」という単語だけでも大興奮です。今年度はサンドウィッチマンを生で観ることを目標にしている、ライブ映像を観たり、ファンレターを描いたりするなど、思いを募らせてきました。サンドウィッチマンを観るならやはりお笑いライブということで、全国ツアーにも応募させていただきましたが残念ながら落選…

全国ツアー落選の悲劇からおおよそ2ヶ月。なんと【サンド軍団 VS 楽天イーグルス OB スペシャルマッチ】を観戦しに行くことが決定！早速チケットを引き換えに行ったり、創作の活動で応援うちわを作ったり、着々と準備を進めていきます。

そしていよいよ当日。試合が始まるとご機嫌な時に出る甲高い声でお話しています。一緒に行った奥津欣也さんも大盛り上がりでした！創作で作ってきたうちわを持つ職員の手をがっちり掴んで上げさせようとする場面もたくさんありました。試合が終わるとサンドウィッチマンや楽天OBが客席へ挨拶をするのを満面の笑みで観て、にこやかにスタジアムを後にしました。翌日、明日さんがご自宅のテレビでこの試合の様子がニュースで放送されているのを見て、ものすごい笑顔になっていたとお母様から伺いました。明日さんにとって笑顔で振り返れる思い出ができたようです。いつかもっと近くで会いたいですね…♡（記：菅原）



東北大学祭 に行ってきました！

夏海さんと奈美さんとで東北大学の学祭に行ってきました。夏海さんは去年もおじゃましているのので、『勝手知ったる…』という感じです！キャンパス内にはいろいろな出店やサークルごとの出し物があって、ふたりともワクワク・ソワソワ！出店を回ってお昼を食べて、ステージイベントを見ることにしました。

途中、記念写真を撮ろうとフォトスポットに並ぶと、学生さんが声をかけてくれて4人で撮ってもらいました。夏海さんも奈美さんも学生さんとの触れ合いに「ふふふっ」と笑みを返していました。マジックショーの待ち時間にはジャグリングを披露してもらいました。夏海さんは「きゃあ」と笑顔で喜び、奈美さんは宙を舞うピンを口を開けて見つめていました。ディズニー研究会へ行って輪投げやボール投げを楽しんでいると、イケメン男子に「頑張れ～！」と応援されてふたりとも張り切っていました。

帰り際に、また出店に寄ってレモンスカッシュを飲み、今川焼を食べ、お腹も笑顔もいっぱい時間ぎりぎりでも帰りました。優しく声をかけて手を握ってくれたり、時に芸を披露してくれたり…。たくさんの学生さんと交流することができて、楽しいのはもちろん、ふたりの思い出に残る時間となりました。（記：佐藤様）



紅葉の松島ツアー～人力車・遊覧船に乗ろう～

11月、滝口奈美さん、高橋智子さんは松島に行ってきました。松島に着くと、さっそく遊覧船に乗っています。窓から見える海の景色を見ながら、周りの観光客の方を見たり、外に出て水しぶきや風を感じて楽しみました。遊覧船の後は昼食です。智子さんは季節を感じる松島かき井、奈美さんは三食井を食べました。智子さんはあまりの美味しさに感極まりながらかき井を食べて、「食」でも松島を感じてきました。お腹を満たした後、奈美さんは今回の旅の一大イベントである人力車に乗りました。乗り込むまで「何に乗るのかな？」という不安もあってか人力車から降りようとして車夫の方を困惑させていた奈美さん



んですが、乗ってみると落ち着いて、視線の高さが変わった景色をじっくり楽しんでいました。車夫さんにガイドをしてもらいながら松島の紅葉をバックに写真を撮ってもらったり、徐々にスピードに乗ってくると奈美さんも手を前に出したり「はっはっ」と声を出したりと満喫している様子でした。車夫の方からも「乗り物の中でも特に珍しい乗り物に乗っていますよ！奈美さん！」と声をかけられると「フッフ！」と初めて乗った人力車を全力で楽しんでいました。乗り物大好きな奈美さん、次は何に乗るのでしょうか？

(記：早坂)



もりのみやこのふれあいコンサート

12月4日、もりのみやこのふれあいコンサートを鑑賞に行ってきました。仙台つどいの家は日頃から音楽に親しみ、音楽が大好きな人たちが多くいらっしゃいます。しかし身体を揺らしながらリズムに乗ったり、盛り上がると声が出てしまうため、なかなか大きな会場でのオーケストラを鑑賞することに遠慮してしまいます。このコンサートは、障がいのある方のための本格的なオーケストラコンサート。多少の音や動きは気にせず鑑賞できます。今年は、仙台つどいの家の利用者さん9名招待していただきました。



ステージに近い席に案内され演奏者が入場すると、いつも仙台つどいの家に演奏しに来てくれる Artway Duo のタタル・ヘンリさんが目の前に。仙台つどいの家のメンバーに気づいて手を振ってくれワクワクが止まりません。聞きなじみのあるマーチ『星条旗よ永遠なれ』が始まると、大迫力の演奏に全員夢中になりました。腕をぶんぶん振って盛りがる人、目を大きくまん丸くして驚いている人、笑い声をあげながら聴く人など楽しみかたはそれぞれ。庄司篤史さんは、コンサートの始まりから終わりまで、バイオリニストが演奏する姿や指揮者の動きをじっと見つめ、ひじで小さくリズムを刻みながら穏やかな表情をしていました。ポルカ『クラップフェンの森で』では鳥の音に合わせて首をかしげる場面も見られ、音楽に入り込んでいる様子でした。いつも周りの音をよく聞いている篤史さんですが、今この音楽を楽しんで聴いているんだなぁと職員もうれしく思いました。これからも本物に触れていろんなことを一緒に感じたいなぁと思うひとときでした。(記：安藤)



職員全体研修 ～意思決定支援～



12月、職員全体研修による実践発表会が行われました。テーマは「どう支援していますか？-意思決定支援-日中活動-」です。各事業所より、利用者さんをピックアップし、日々の活動の中で意思決定をしている様子を紹介していただきました。

仙台つどいの家では、さんしょグループの後藤彩也佳さんの活動を発表しました。念願の温泉旅行へ行くことが出来た彩也佳さん。気管切開をしているため声は出せませんが、美味しいものを味見したり、外出したりと楽しいことが大好きです。言葉では伝えられなくとも、表情や身体を動かし、全身を使って自分の意思を伝えている姿と、それらを汲み取る職員との関係性が素敵でした。

毎日の何気ない事柄でも、選択の機会を設け、小さな意思決定の積み重ねが大事なのだと感じました。今回の研修を通じて、日々の支援に対して改めて考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。

(記:熊谷)



リーの会・施設長職員合同研修会が開催されました！！

10月31日、『重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会(通称：リーの会)』の施設長職員合同研修会が開催されました。

3名の講師の方からご講演いただきましたが、あおぞら診療所ほっこり仙台の田中先生のお話が特に印象に残りました。講演の中で先生は「医療的ケアの必要な子どもたちは生きることによって精いっぱいになりがちだが、生命の安全を守ったうえで、健康の維持や社会生活を支える要素が必要」とお話をされました。遊び・出会い・外出・学びや仕事などの社会生活の視点を持つことで、『こう生きたい!』『生まれてきてよかった!』とってほしいという視点が大事だと感じました。また、事例の中で、余命を宣告された子どもさんたちへの在宅ケアの話が出て来ましたが、先生が大切にしていることは、まず本人に『大切な存在』『愛されている存在』であることを伝え、本人・ご家族と一緒に歩いていくということでした。その過程では日々笑いや涙があり、最期を迎えたときにご家族全員が笑顔で、やり切った顔でご本人を見送っている姿がとても印象的でした。

3名の講師の方、それぞれ違った立場から実体験を交えたリアルなお話を聴くことが出来ました。大変貴重なお時間をありがとうございました。

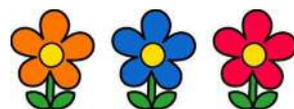
(記:齋藤)



新利用者紹介

ようこそ！ 仙台つどいの家へ！

12月から 仙台つどいの家に新しいメンバー2名が加わりました！
これから仲間たちと一緒に楽しい活動をしていきましょう！



もみじグループ

おうみ あきほ
近江 晃歩さん

- ◆好きなこと
身体を動かすこと
(さんぽ、トランポリン、ブランコなど)
- ★好きな食べ物
チョコレート



くるみグループ

あべ しんや
阿部 真哉さん

- ◆好きなこと
ホラー映画、本を見ること
- ★好きな食べ物
ハンバーグ、カレーライス

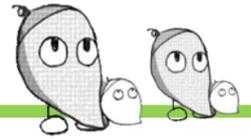
職員コラム

今回は！もみじグループ

すずき めい 鈴木 芽依さん

今年度、仙台つどいの家に入職しました鈴木芽依と申します。もみじグループで毎日楽しく活動させていただいており、あっという間に入職してから1年が経とうとしています。利用者さんとの日々の活動や外出などで素敵な一面をたくさん見せていただき、学生時代に“こんな仕事がしたいなあ”と思い描いていたことがまさに今できていて私自身もとても楽しいです。その一方で、利用者さんとの関わりで難しいなと感じることも多くあり、どうすれば利用者さんが気持ち良いと感じる支援ができるのか自分なりに毎日考えています…。

私は福島県南相馬市出身で大学時代は東京で一人暮らしをしておりました。遊びには何度も来ていましたが、ずっと住んでみたかった仙台で初めての冬を経験しているわけですが、やはり全然違う寒さですぐ雪がちらつきますよね？でも、街ゆく人みんな結構薄着の人が多くて強いな~と思う反面見てるこちらが寒いです(ಥ_ಥ)。私にとっては極寒の仙台ですが、意外と都会だし交通のアクセスも良く、地元にも帰りやすくてちょうどいいな~と常々感じています。これからもっと仙台をいろいろ開拓して知り尽くしていきたいと思っています。



スケジュール schedule

令和7年 2月

- 3日(月) 交流イベント「イオン仙台幸町店」
- 6日(木) 音楽療法①
表現展(～14日)
- 13日(木) 生け花①
- 20日(木) 防災訓練④(部分訓練)
- 21日(金) 職員会議
施設懇談会
- 26日(水) ケース会議 13:30降所
- 27日(木) 音楽療法②
生け花②
- 28日(金) 内部研修

令和7年 3月

- 4日(火) マイナビ就職フェア
- 6日(木) 音楽療法① 生け花①
- 15日(土) きょうだい会
「めいぷるでパン・焼き菓子作り」
- 19日(水) 日中活動支援事業部研修報告会
- 21日(金) 職員会議 施設懇談会
- 25日(火) 採用チーム主催
「オープンカンパニー(座談会)」
- 27日(木) 音楽療法②
生け花②
- 31日(月) ケース会議 13:30降所

ご協力ありがとうございます ボランティアとして協力して頂いた皆様

(11月15日～1月10日)

吉田さん、平さん、日下さん、

見学・来訪者など

音楽療法：向井田先生・山崎先生・渋谷先生、生け花：濱谷先生、小松島支援学校、訪問調査センター、北部アーチル、風の郷工房東山さん、宮城教育大学三科先生、東北福祉大学工藤さん、利府支援学校 木原先生、フォレスターナ若林 菊地さん、加茂はげみホーム 渡辺さん、訪問看護ステーションもりのとびら、ピーススマイル石道さん、ソーシャルインクルー、宮城学院女子大学 高柳さん、大気堂 田村さん、セントケア、コスモス、宮城野消防署鶴ヶ谷出張所、三晴産業、同事建設、千葉出版印刷、ブルーム、ほまれフーズ、ダイエイミート、ヤクルト、アグリ仙台、ホシザキ東北、マルキ水産、サトー商会、東北食材、日本テクノ

法人職員：理事長、佐吉、飯田、福地、坂本、三浦、佐々木、鈴木、彩乃、大累、健、高杉、小原、靖志、勝浦、小野、櫻井、森音

(ほか多数 以上ご芳名敬称略・順不同)

今年も **表現展** 開催します！

仙台つどいの家の利用者さんが心の内を表現した個性の光る作品を多数展示します。

日時：2025年2月6日(木)～2月14日(金)

※最終日は15時まで

場所：イオン幸町店 2階連絡通路

是非お気軽にお立ち寄りください！



缶回収

12・1月分の納品額

合計 10,560円 でした。

ご協力ありがとうございました。



編集後記

ちょうど一年前の編集後記で私は「脱・暇人」を一年の目標に掲げましたが、見事に暇人のまま一年が終わりました。しかし、何もせずにはぼーっと過ごす時間も決して無駄なものではないと思います。皆さんも自分のペースでこの一年過ごしていきましょう。(記：菅原)